

口内炎の猫に ファイア抽出「糖鎖TPG-1」を与えた二例



症例提供

石井 万寿美 先生

まねき猫ホスピタル

Case.1

FIVキャリアの猫が2週間で寛解した例

症例について

10歳の去勢済みオスMIXの猫です。基礎疾患として猫免疫不全ウイルス(FIV)陽性を患っていました。

口内炎による流涎を主訴に来院。視診にて歯肉炎および歯石の付着を認めました。歯石除去の施術前にセフォペンナトリウム注射を実施し、同時にファイア糖鎖TPG-1の使用を開始しました。

経過と結果

ファイア糖鎖TPG-1を基準量にて投与開始し、7g分の摂取を終える頃には歯肉炎は寛解しました。その後、歯石の除去も実施し、経過は良好です。

考察と感想

2週間程度で寛解し、大変驚きました。

Case.2

慢性腎不全の高齢猫が口内炎が改善した例

症例について

17歳の避妊済みメスMIXの猫です。10歳頃より慢性腎不全を発症しており、全身状態悪化に伴い、猫カリシウイルス感染症から口内炎を発症していました。血液混じりの流涎を認め、皮下補液等の標準治療に加えリポアラビノマンナン(丸山ワクチン)投与を実施しました。しかし、免疫力が低下するたび口内炎を再発し、食欲不振および飲水量低下により、腎不全との悪循環を起こしていました。

経過と結果

難治性の口内炎に対し免疫力向上による効果を期待し、ファイア糖鎖TPG-1を基準量にて開始しました。2週間分の摂取を終える頃には口内炎の明らかな改善効果を実感し、これ以降、ファイア糖鎖TPG-1の摂取を継続することで食欲および飲水量を良好に維持しています。

考察と感想

慢性腎不全に口内炎を併発していた猫でも、食欲および飲水量が改善し良好な経過がみられました。